

授業科目名	音楽療法総論 I	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	長江 朱夏	単位	2	年次	1

＝授業のテーマ及び到達目標＝

- 音楽療法の入門として、子ども期を中心とした対象者の様々な取り組みを学ぶ
- 音楽を意図的に扱う音楽療法の分野において、コミュニケーションとしての音楽、音やリズムが広げる自己表現の可能性についてのユニークな発想を学ぶ
- 非言語コミュニケーションのワークショップを通し、体験的に障害者理解を深める
- 音楽療法が他の音楽関連職種と違う特徴を知る

＝履修の条件と学習の方法＝

講義形式を基本とした授業内容だが、体験ワーク（音楽体験やロールプレイ）やグループディスカッションも含まれる為、意欲的に参加できること。

事前に課せられる予習課題を行って授業に臨むこと（課題、予習などの予定は第1回目の授業にて連絡）

＝授業の概要＝

日本音楽療法学会が認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要となる基礎教養科目。

音楽の持つユニークな力を医療や福祉の現場で活かし、人々の健康を支援する取り組みが音楽療法である。本授業では、音楽療法という分野の全体像を、歴史だけでなく近代の音楽療法の取り組みから学んでいく。総論 I と II の内容は連動しており、2つの科目を通し音楽療法コース入門の位置づけとなる。身体、精神、発達など様々な障害をもつ対象者のニーズや特性を理解する基礎知識を養うことは勿論、音楽療法がどのように専門家として関わり、音楽固有の力を発揮していくのかを、オーディオや映像の臨床例を交えながら理解を深めていく。

＝授業計画＝

講義内容や進行順序は場合により部分的に変更することがある。

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義内容と目標）の確認。「音楽療法とは？」
- 2回 歴史から見る音楽療法① 「人と音楽—民族と宗教」
- 3回 歴史から見る音楽療法② 「パイオニア達とアプローチ」
- 4回 表現 そして コミュニケーション
- 5回 創造する音楽
- 6回 音楽療法の様々な場面
- 7回 障害を理解する① 知的発達障害
- 8回 障害を理解する② 知的発達障害
- 9回 障害を理解する③ 自閉症スペクトラム障害
- 10回 聴覚障害、聴覚機能について
- 11回 音楽療法と音楽教育
- 12回 脳性まひ、筋ジストロフィー
- 13回 グループ音楽療法①
- 14回 グループ音楽療法②

15回 まとめ

=テキスト（必携）=

書籍名：音楽療法入門 I
著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）
出版社：一麦出版社

書籍名：音楽療法入門 II
著者名：デイビス 他（著）栗林文雄（訳）
出版社：一麦出版社

書籍名：音楽療法入門 III
著者名：デイビス 他（著）廣川恵理（訳）
出版社：一麦出版社

その他、必要に応じて適宜授業にて配布する。

=参考書・参考資料（必携）=

授業内で適宜紹介していく

=成績評価の方法と評価の基準=

出席点は、出席2点、欠席0点とする。遅刻・早退は各30分以内とし、1回につき-0.5点とする。これらを算出し総合成績の30%に反映する。

提出物（総合点の30%として反映）

- ・ 課題（2題）内容と提出期限は授業内にて案内。提出期限厳守。各10点
- ・ レポート（2回）内容と提出期限は授業内にて案内。提出期限厳守。各5点

※ 提出物は期限から遅れると1日につき-1点とする。

期末テストの成績は総合点の40%に反映する。

=その他=